

感染症に気をつけよう！



平成 25 年
【3月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況	コメント
インフルエンザ	◎ ↓	市全体では落ち着いて来ましたが、今も 警報 や 注意報 レベルの区があり、引き続き注意が必要です。【1月号】【2月号】
風しん	● →	2月以降も 流行 が続いています。下段の解説を参考にして、該当する方は主治医に相談し、 予防接種 を受けましょう。
マイコプラズマ肺炎	● →	報告数が多い状況が、まだ続いています。長引く咳などがある場合は、医療機関を受診しましょう。【11月号】

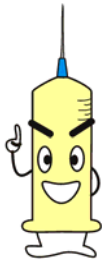
◎ 流行 ● やや流行 → 横ばい ↓ 減少

今、気をつけたい感染症 = 風しん

◆ 風しんウイルスの感染が原因で、主な症状は発疹・発熱・リンパ節のはれです。小児では通常あまり重症にはなりません。妊婦(特に妊娠初期)が感染すると、白内障・心疾患・難聴などを持った、**先天性風しん症候群**の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

◆ 昨年の【8月号】で取り上げましたが、現在も全国的に流行が続いており、**国が注意**を呼びかけています。首都圏の報告数が特に多く、横浜市内でも昨年6月以降流行が続いています。流行の中心は、風しんの定期予防接種が開始された当時、接種対象ではなかった30~40代を中心とした成人男性です。詳しくは**横浜市感染症臨時情報**をご覧ください。

◆ 流行をおさえ先天性風しん症候群を防ぐためには、**予防接種**が重要です。特に次の①②③に当たる方は、主治医に相談し**予防接種**を受けましょう。ただし、妊婦は風しんの**予防接種**を受けられません。また、接種後2ヶ月間は**避妊**が必要になります。



- ① 妊婦の夫、子どもその他の同居家族
- ② 10代後半から40代の女性
- ③ 産褥(さんじょく)早期の女性

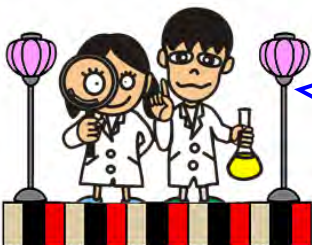


◆ なお、次の④⑤⑥の方は、定期予防接種として**麻しん・風しん混合(MR)ワクチン**を無料で接種できます。



- ④ 第1期 → 1歳以上2歳未満
- ⑤ 第2期 → 5歳から7歳未満で小学校入学前の1年間
- ⑥ 第3期および第4期 → 中学1年生相当と高校3年生相当
(接種を1回しか受けていない方で、平成25年3月末までに限ります。)

この資料は、**横浜市感染症発生動向調査委員会報告**2月期の**市民向け版**です。
ホームページの**感染症発生状況**や**啓発用パンフレット**もご覧ください。



横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課

【横浜市感染症情報センター】